



# “えん”でまなぶ、 “おうち”でそなえる



弥富市は木曾川をはじめとした多くの河川が存在し、伊勢湾台風などの数々の災害を乗り越えてきました。

近年防災意識が高まっている中、今回特に配慮が必要になる子どもを持つ家庭に着目し、子育て世代の防災意識向上の必要性を感じました。

そこで、日常的に子どもたちを預かり、地域住民から身近な公共施設である保育所の防災教育を学ぶことで、子育て家庭への災害対策の参考になると考え、取材を行いました。

密着

## 西部保育所防災訓練

### 1. 地震発生 (9時45分)



保育士の指示のもと、子どもたちは机の下に隠れるなど、安全姿勢をとりました。

### 2. 園庭へ避難 (10時15分)



点呼で全園児・職員の避難完了を確認しました。

### 3. 津波発生 (10時30分)



屋外階段を使い、園庭から屋上へ避難しました。



### 4. 屋上へ避難完了 (10時50分)

避難後、ライフジャケットを着用し、無事訓練が完了しました。訓練の後、先生から園児へ「自分の命を守ること」「先生のお話をよく聞くこと」など、命の大切さについて伝えました。

## 保育所防災対策 Q&A

### Q1. 備蓄はどれくらい？

**A.** 備蓄は、園児用だけでなく地域の人用を含む保存食や水があります。また、持ち出し品の中には、子どもも簡単に座れる簡易トイレを備えています。



### Q2. 子どもへ分かりやすく伝えるには？

**A.** 子どもには、年齢に合わせ、分かりやすい言葉で伝えるだけでなく、シェイクアウトの練習をするなど、体を動かす体験も大切にしています。



### Q3. 職員として心掛けていることは？

**A.** 訓練後、検証会を経て、改善点を次回の訓練に生かすようにしています。園長は、園の責任者として、職員のこと守らなければならないため、訓練で保育士が判断に迷うこと、不安なことがあれば、言葉にして発し、園長や周りの人に知らせるよう伝えています。

## 私たちは愛知大学の学生です！

3月号の特集記事を愛知大学生が担当させていただきます。  
[子育て世代へお伝えしたい災害対策]を紹介させていただきます。  
ぜひご一読ください。



## 東嶋先生にインタビュー！

### Q1. 訓練時に特に気を付けていることはありますか？

**A.** 訓練時は、園児へ次の5つを特に伝えています。

- その場に留まる
- 耳でしっかり指示を聞く
- けがなど困ったことはすぐに伝える
- 大人の声を聞いて返事をする
- 避難時に周りや大人の姿を見る

### Q2. 小さな子どもがいる家庭ならではの家庭でできる防災対策はありますか？

**A.** 小さな子どもがいる家庭では特に、「時間」・「荷物」・「人手」が必要です。

- ①「時間」：事前にハザードマップを確認し、情報収集を行いましょう。子どもと一緒に避難は、大人だけの場合よりも時間がかかります。そのため、時間を意識した行動が大切です。
- ②「荷物」：おんぶひもやだっこひも他、子どもが安心できるおもちゃやお菓子が避難時に大きな助けになります。
- ③「人手」：避難のサポートをしてくれる近所の方(大人)などの援助者を指します。子どもがいる家庭では、抱っこや付き添いが必要になるため、災害時は人手が重要です。いざというときに協力し合える体制づくりが備えになります。

これらを事前に備えておくことは  
災害時に大切な命を守る力になります！



## 終わりに ~取材を通して~

今回、取材させていただき、保育所での防災教育・子育て世代に向けた対策についてお話を伺いました。その中で、子どもの不安を和らげるには日頃の備えが大切だと改めて感じました。ご家庭でも、子どもが非常時に落ち着いて行動できるよう、子ども用の防災バッグなどの準備が大切です。

また、子どもたちは日々、保育所で「自分の身を守る力」を学んでいます。保育所で学んだことをお家で一緒にお話ししたり、確認することも大切です。いざというときに安心して行動できるよう、物の準備と合わせて心の準備も進めていきましょう。

